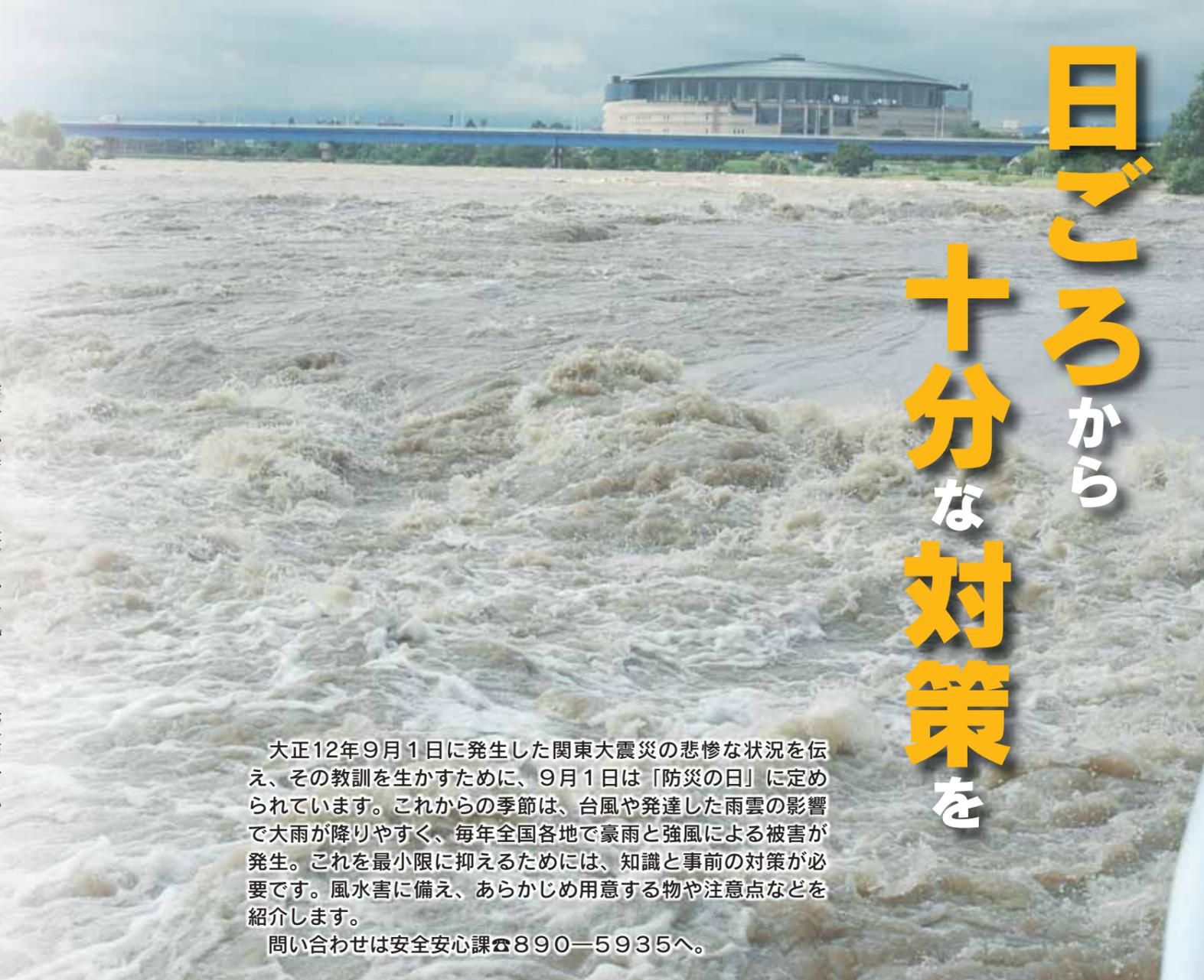


9月は風水害が多く発生する季節です

日
べ
ご
ろ
ら
か
ら

十分な対策を



大正12年9月1日に発生した関東大震災の悲惨な状況を伝え、その教訓を生かすために、9月1日は「防災の日」に定められています。これからの季節は、台風や発達した雨雲の影響で大雨が降りやすく、毎年全国各地で豪雨と強風による被害が発生。これを最小限に抑えるためには、知識と事前の対策が必要です。風水害に備え、あらかじめ用意する物や注意点などを紹介します。

問い合わせは安全安心課 ☎890-5935へ。

過去に多くの水害が

本市は、「水と緑と詩のまち」とうたわれているように、市内を利根川や広瀬川、桃ノ木川、荒砥川、粕川などが流れ、自然の恵みをもたらしています。しかし、古くから水害も多く発生。特に昭和22年のカスリン台風では、地域の多くが水没しました。さらに、翌年のアイオン台風、24年のキティー台風と3年続けて台風の影響を受けています。また、昭和56年の台風15号、57年の台風10号、58年の台風18号などが、大きな被害をもたらしました。

昭和61年以降は、雷雨による集中豪雨から発生する浸水害が多く見られます。特に平成9年9月の集中豪雨では、1時間の降水量が100mmを越え、400件以上の建物などに被害が発生しました。

昨年は、幸いにも本市は、台風の直撃は受けませんでした。今年も既に九州地方などで豪雨災害が発生しています。注意してください。

集中豪雨に注意

集中豪雨は、狭い地域に短時間で突発的に集中して降るため、予測が比較的困難です。中小河川のはらばらや土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地などでは気象情報に十分注意して、万全の防災対策を取りましょう。

事前の対策が大切

台風や豪雨はある程度予測できるため、事前の対策次第で被害を最小限に食い止めることができます。日ごろから十分な対策を立てておくこ

強い地震を 到達前に速報

10月1日(月)から、気象庁が一般向けの「緊急地震速報」を開始。これは、地震の初期微動(P波)と強い揺れ(S波)の伝わる速度の違いを利用して、強い揺れが到達する前に地震情報を配信するもの。震度5弱以上が推定される場合、震度4以上の地域名をテレビ・ラジオで情報提供します。ただし、震源に近い地域では、この速報が強い揺れに間に合わない場合もあります。〇…問い合わせは気象庁地震火山部 ☎03-3212-8341へ。

とが大切です。

●日ごろの心構えと準備を

家の近くの危険場所と避難場所を確認。いざというときに対応するため、非常食や飲料水、懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池などを準備しておきましょう。

●台風が近づいたら

外出は控えてください。瓦や窓などを点検し、特に商店では看板が風で飛ばされないように固定。浸水などの恐れがあるときは、家財道具や生活用品を高い所へ移動させておくなど安心です。

●避難するとき

単独行動は避け、地域の人と協力し合って避難します。お年寄りや体の不自由な人、病人などがある家庭は特に早めに避難しましょう。避難勧告を受けたら、危険を感じなくても速やかな避難を。また勧告がなくても、危険と判断したら自主的に避難してください。

避難するときは、電気やガスなど火の元の始末、戸締まりを確実に。また、行動しやすい服装で丈夫な運動靴、手袋なども持ちましょう。なお、災害が発生、またはその恐れがあるときに、市長は状況に応じて「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」を発令しますが、その基準は表1のとおりです。

市長が状況に応じて発令する内容と気象状況で使われる言葉など正しく理解しましょう

| 表1 | 市長が行う勧告など | | | 風速と被害 | | 雨量と降り方 | | 風・大雨・洪水の注意報と警報の基準 | | 台風の勢力 | | | |
|--------|--|--|---|-------------|------------------|---------|-------------------------|---|---|-----------------|--------------------|--------------|-------------------------------------|
| | 条件 | 伝達内容 | 伝達方法 | 風速 | 被害状況 | 1時間の雨量 | 雨の降り方 | 注意報 | 警報 | 大きさ | | 強さ | |
| 避難準備情報 | 災害発生のおそれがあり、事態の推移によっては避難の勧告、指示などを実施する必要がある | 勧告者、危険予想地域、避難準備勧告すべき理由、避難に際しての携帯品、避難方法 | 自治会組織による伝達、広報車による伝達、防災行政無線、その他必要に応じてテレビ放送、ラジオ放送を併用する | 風速 10m/秒 | 傘がさせない | 8~15mm | 雨の音が聞こえる | 風 (強風注意報) 平均風速がおおむね毎秒13mを超え、主として強風による被害が予想される | 警報 (暴風警報) 平均風速がおおむね毎秒18mを超え、重大な災害が起こる恐れがあると予想される | 階級 | 風速秒速 15m以上の半径 | 階級 | 最大風速 |
| 避難勧告 | 当該地域、土地建物などに災害が発生する恐れがある | 勧告者、避難すべき理由、避難先、避難所に至る経路 | 自治会組織による伝達、広報車による伝達、防災行政無線、その他必要に応じてテレビ放送、ラジオ放送、口頭による伝達、サイレンを併用する | 風速 15m/秒 | 看板やトタン板が飛び始める | 15~20mm | 地面一面水たまり。雨音で話し声がよく聞こえない | 大雨 (大雨注意報) かなりの降雨があつて被害が予想される | (大雨警報) 大雨によって重大な災害が起こる恐れがあると予想される | 表現なし | 500km未満 | 表現なし | 毎秒 17m以上 33m未満 |
| 避難指示 | 状況が悪化し、避難すべき時期が切迫した場合、または現に災害が発生しその現場に残留者がいる | 指示者、避難すべき理由、避難先、避難所に至る経路 | 自治会組織による伝達、防災行政無線、その他必要に応じてテレビ放送、ラジオ放送、口頭による伝達、サイレンを併用する | 風速 20m/秒 | 小枝が折れる | 20~30mm | 土砂降り。側溝がたちまちあふれる。大雨注意報 | 洪水 (洪水注意報) 大雨、長雨、融雪などで河川の水が増し、そのため河川の堤防、ダムに損傷を与えるなどで災害が起こる恐れがあると予想される | (洪水警報) 大雨、長雨、融雪などで河川の水が増し、そのため河川の堤防、ダムに損傷を与えるなどで重大な災害が起こる恐れがあると予想される | 大型 (大きい) | 500km以上 800km未満 | 強い | 毎秒 33m以上 44m未満 |
| | | | | 風速 25m/秒 | 瓦が飛び、街路樹が倒れる | 30~50mm | バケツをひっくり返したよう。大雨警報 | | | 超大型 (非常に大きい) | 800km以上 | 非常に強い 猛烈な | 毎秒 44m以上 54m未満 毎秒 54m以上 |
| | | | | 風速 30m/秒 | 雨戸が外れ、家が倒れることもある | 50mm以上 | 滝のように降る。土石流が起こりやすい | | | | | | |